

河北潟の水辺と農地

協働の水辺と農地の保全活動

外来植物除去活動

はじまり

2005年、河北潟湖沼研究所は、
河北潟の水辺に繁茂する外来植物・チ
クゴスズメノヒエの協働による除去活動を始めました。



目的

河北潟にもともとある在来植物
を保全し、豊かな水辺環境を守るため
です。活動の時は、そこにある植物を根こそぎ取ってし
まわないよう手作業を中心に作業するため、たくさん
の人手が必要です。地域住民、農家、行政、さまざまな
人に呼びかけ、活動を行います。



協働

2008年からは住民団体、NPO、農
家団体、大学、国、県、2市2町の関係機
関の多様な主体の協働により、毎年秋に実施していま
す。協働による外来植物一斉除去活動は、2016年まで
に45回、のべ900人で作業しています。河北潟湖沼研究
所は、植物の状況を調査し、地域に活動場所を提案す
る等、実施を働きかけています。

○ 主な外来植物除去 活動実施地点



チクゴスズメノヒエ (イネ科スズメノヒエ属)

北アメリカ南部原産の多年草。湿地や水路に群生する。河北潟地域の水辺では
1995年ごろから見られるようになり、数年で爆発的に増加した。水辺にマット状に
拡がり、大きな群落は水面を覆ってしまう。



● 継続した活動で、地域の環境が保全されていきます。

広い農地にたくさんの水路や川がめぐる河北潟地域、みんなの手で外来植物がこまめに除去されことで、地域の大事な水の流れや農地、景観などが守られていきます。

水路

除去活動によって水の流れがよくなり、農地への水の供給、排水が保たれ、排水機場の機械なども守られます。また、水質の悪化やにおいの発生を防いでいます。



農地

チクゴスズメノヒエで水面が覆われてしまった水路には、除去活動の継続によって、希少な在来植物のアサザが戻ってきました。



景観

在来植物

早めの除去

秋に行われる一斉除去活動以外でも、少しずつ除去すれば効果は広がります。特にチクゴスズメノヒエがまだ小さな春～初夏にかけて除去できれば、労力は少なくすみ、効果は大きくなります。

<除去の仕方>

チクゴスズメノヒエを根元から抜き取り、コンクリートや空き地などで完全に乾燥させます。（注意！）水辺に放置すると、また再生します。完全に乾かして枯死させる必要があります。



有効利用

除去されたチクゴスズメノヒエ、当初ゴミとして処分するだけでしたが、有効利用を目指し、堆肥化とその普及もすすめています。

● 継続した活動が持続可能な農地、地域をつくります。

NPO法人河北潟湖沼研究所 平成29年3月発行

〒929-0342 石川県河北郡津幡町字北中条ナ9-9 TEL 076-288-5803／FAX 076-255-6941

URL <http://kahokugata.sakura.ne.jp> E-mail info@kahokugata.sakura.ne.jp

このパンフレットは地球環境基金の助成を受けて制作しました。

